

HIMALAYA

ヒマラヤ

No.367



2002 JUNE



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

2003年H A Jサマー・キャンプ隊員募集

チベット カンペンチン(7,281m)

シシャパンマの北麓の大地を進むと屏風のように白い山脈が連なっています。その主峰がカンペンチンと呼ばれる山です。まるでヒマラヤ山脈を守るかのように立派な牙のように鋭峰（北峰）を持った山です。1982年と1998年に日本隊によって登頂されていますが、ルートはその東面を予定しています。

記

1. 期間：2003年7月20日～8月25日（37日間）
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：85万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 〆切り：定員になり次第
6. その他：H A Jの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。また、高所ポーターを使用しない隊員による自力登山です。

チベット ニンチン・カンサ(7,206m)

ラサから半日行程の所にヤムドク・ツォと呼ばれる大きくて美しい湖があります。その湖を見下ろすようにそびえているのが名峰ニンチン・カンサです。H A Jは既に3回登頂に成功しています。ルートは1998年にH A J隊が初登攀した西稜を予定しています。

記

1. 期間：2003年7月20日～8月25日（37日間）
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：85万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 〆切り：定員になり次第
6. その他：H A Jの登山隊は、「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。また、高所ポーターを使用しない自力登山です。

P 6にも募集があります。

表紙写真

8年続いた我がグループのネパールからのヒマラヤ・トレッキングは、今冬、インドからのヒマラヤと言うことで、シッキムのガントクからダージリンと辿り、タイガーヒルでは日の出と共に全貌を現したカンチェンジュンガ(8586m)の展望に恵まれた、西には遠くエベレスト・マカルーが望まれた。(2002年1月) (文・写真：平山 良正)

ヒマラヤ No.367

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 新連載 ロー・マンタンの空、遥かなり(1) | 高橋 照 |
| 7. トータル獲得標高2001 | 山森 欣一 |
| 18. ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・トピックス〉 | |
| 20. 黄金の玉座から花嫁の峰へ カラコルム連続登山計画 | |
| 24. 寸感・事務局日誌 | |

ロー・マンタンの空、遥かなり(1)

カリガンダキ左岸の地図の空白部に行く

高橋 照

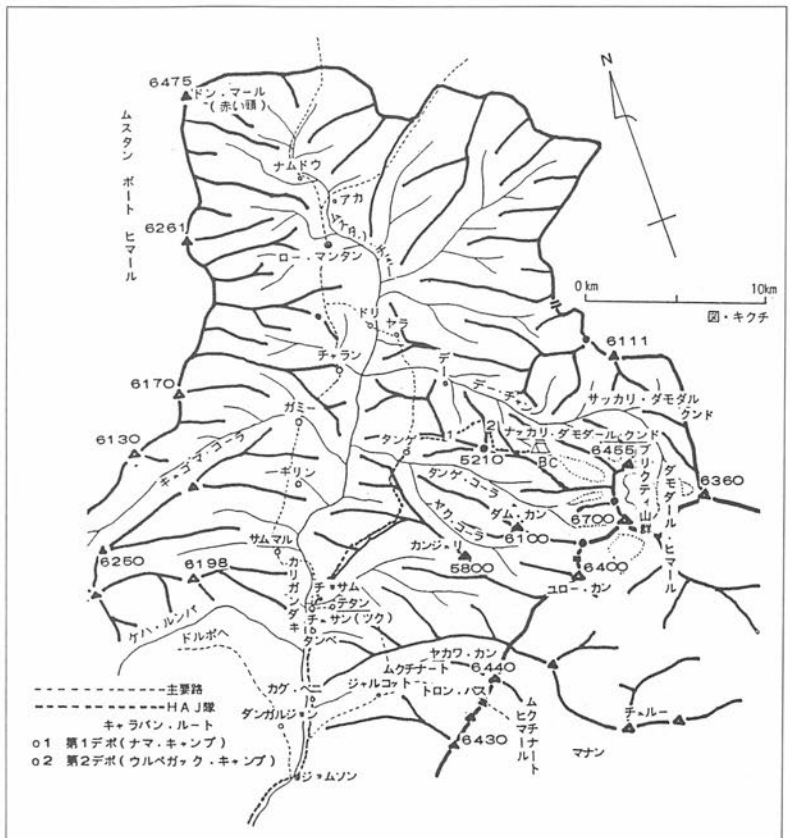
日本ヒマラヤ協会では、1982年春、当時はネパールの禁断の地といわれた「ムスタン」地域内にあり、中国との国境に位置する「ブリクティ・サイル (6,364m)」に登山隊を派遣した。もとより禁断の地として外国人の立ち入りは厳しく制限されていた地域のため、許可の取得については難航を極めたが、南面の偵察活動の結果、西側からのアプローチが認められ、ロー・マンタンの入域はできなかったが、ムスタン入りが実現したのであった。この登山の報告は、H A J 機関誌「ヒマラヤ130号」と、「H A J 年報Ⅲ」を参照されたい。ところで、この登山隊には、高橋照氏 (1986年2月死去) も参加した。高橋氏は、「照さん」の愛称で多くの岳人に愛された人であったが、1977年秋には単身ロー・マンタンに入域し、その模様は「秘境ムスタン潜入記」として1979年10月に東京新聞出版局から刊行された。照さんは、H A J 隊に参加した1982年の「ムスタン入り」の体験を「二度目のムスタン紀行」と題して執筆しておられたが、日の目を見ることなく他界された。照さんの17回忌に当たる本年に遺稿が本会に巡ってきたのも不思議な縁でもあり、ご親族の了解を得てヒマラヤ誌上にて連載する運びとなった。

最近、精力的に西北ネパールを踏査・調査している大阪山の会によって、この地域についての素晴らしい概念図も発表されているが、20年前に踏査したネパール通の照さんの手書きの図で往時を知ることもまた楽しみなことではないだろうか。

なお、表記その他なるべく照さんの書き残されたとおりとした。写真はほとんど照さん撮影のものである。概念図も出典のないものはすべて照さんの残されたものである。

なお、登山隊が登頂した山群の最高峰 (登山隊はVI峰6,700mと仮称) は、当時カトマンズに帰着後、測量局で地図を見た結果、Khamjungar Himal 21, 980ftであることが判明した。

照さんのご冥福をお祈りしつつ。なお、連載は15~20回を予定しています。(記: 山森欣一)



▲ムスタン概念図 (ヒマラヤ130号より)

カリ・ガンダキの河床からカグベニへ

きょうはもう時刻も遅くなったので出発することはまずないだろうと覚悟を決めていた私達は、ジョムソム飛行場の前にあるアラカ・ホテルの食堂でロキシーを飲み始めていた。肴は例によってポップコーンである。1982年5月2日のことであった。

そんな時いきなり4、5人の私服を着たネパール人がドカドカとホテルに入って来た。隊長の菊地君は、警察の人だといってすぐ奥にある調理場に行き、何か飲物を注文しに行ったようだ。彼等はジョムソムのチェック・ポストのインスペクターとその部下達である。きっとムスタン・ディストリクト（ムスタン県）のCDO（Chief district officer）が私達の持っている許可証を確認したので、警察の人達が来たのだろうと直感した。ところがその部下の中の一人の警官に私は見覚えがあったので一瞬ギョとしたが、もう5年も前のことなので相手はまったく覚えていないようだった。私はひそかに胸をなで下ろした。ほどなく調理場より紅茶が運ばれて来て、菊地君と何やら小声でインスペクターは話し合っていた。紅茶を飲み終わった彼等はこれからは秘密の話だから小さな小部屋を開けてくれないか、といいながらケサン・ナムギャル氏とホテルの個室に入り、内側から鍵を掛けて30分ほど何か話し合っている様子だった。2、30分して部屋を出てきたインスペクターは一言「シュデュウ」（終わった）といって部下を連れてホテルを出て行った。

隊長の菊地君は



▲カグベニの門になったチョルテンとバットイ

「みんなCDOの気が変わらないうちに、早くここを急いで脱出しよう。本日は間違いなくもう一日ジョムソム泊まりになるだろうと腹を決めていたんだが、今や一刻も早くここを出た方がよい」と思うといって隊員全員に、

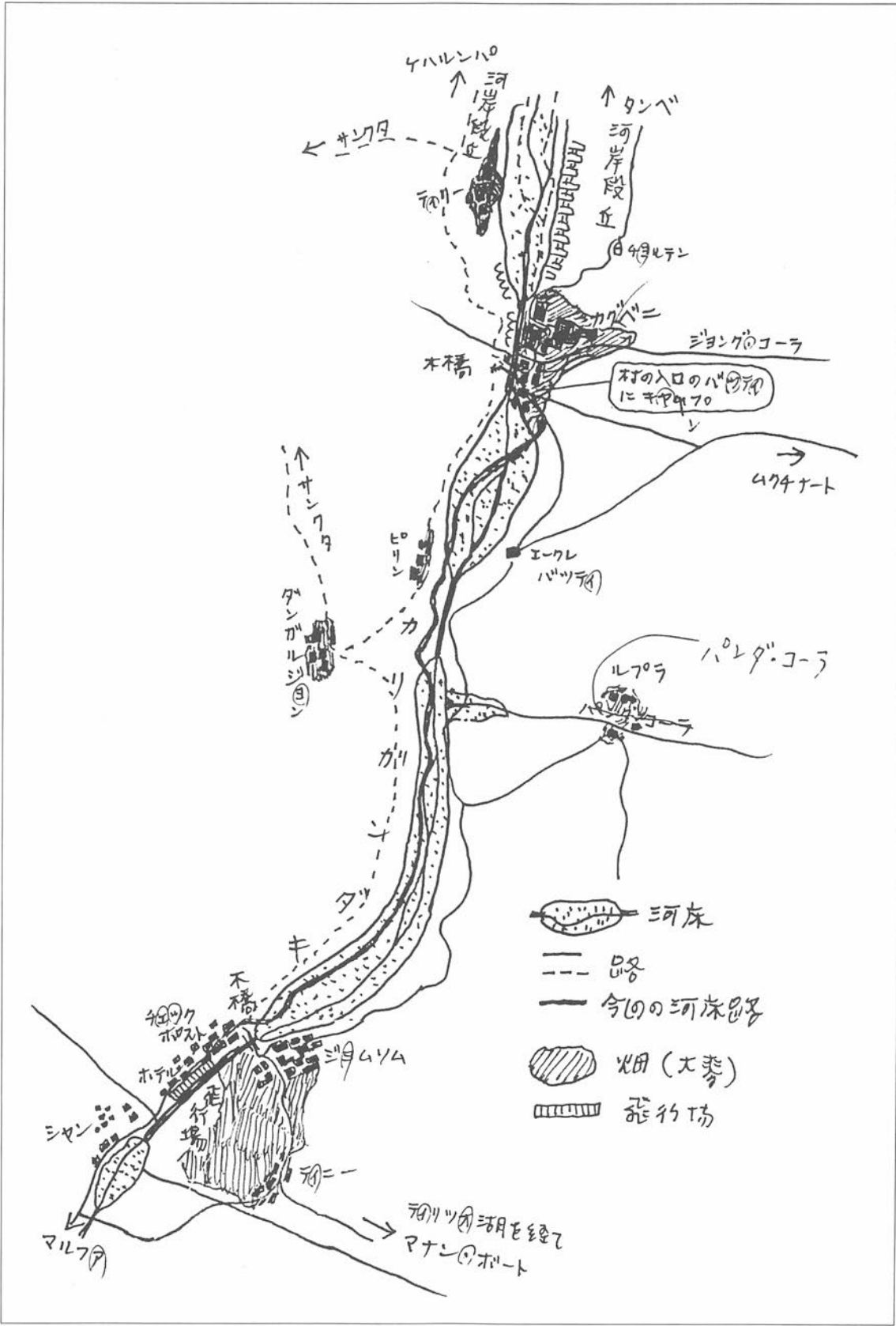
「今すぐ出発するぞ」と命令を下した。そして外に出てシェルパやポーター達に、今からすぐ、これからカグベニまで荷物を運ぶよう持前の早口のネパール語でどなりちらした。既に時計は午後1時を廻っていた。

ケサン・ナムギャル氏は、「私はロー・マンタンに行ってもよいことになりましたが、皆さんと一緒に行動をとらないということが条件なのです。皆さんにご迷惑をかけて済みません」といったが、その時私達は一体何がなんだかさっぱり判らなかったのである。

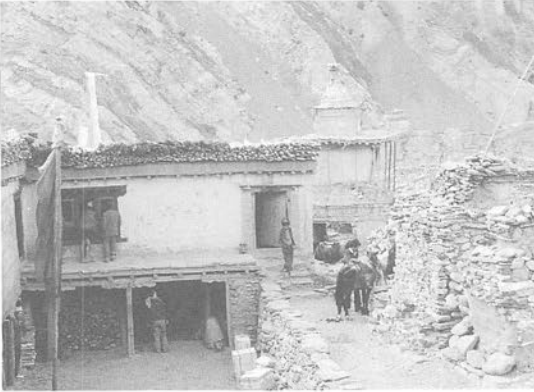
しかし、この3、4日の空気から判断して、私達が予測していた当然起こり得る事態に直面していることが薄々ながら判りかけて来た。ネパール政府のホーム・パンチャット（内務省）は、私達の際がたとえ観光省の正式の許可証を持っていても、絶対に外国人をムスタンのリストリクト・エリアには入れさせないという気魄を私達は既に感じてはいたが、事が重大な問題だけに菊地君は一人でまったく秘密裡に、昨日からCDOと折衝を重ねていたことは私には理解出来た。彼が恐れていたことは、ブリクティ遠征が中断することだったのだ。

私はきょうは出発は出来ないと思い込んでいたので、私の乗る馬の手配はしていなかった。トゥクチェから乗って来た馬は、ブッディ・パハドゥルとの約束でジョムソムまでということだったので、馬は昨日既に返していた。兎に角、隊は直ぐ出発せねばならないので、カグベニまでの3時間の道程は歩いて行くより仕方がない。

私達の隊は既にインスペクターのOKが出ているので、ジョムソムのチェック・ポストに再び寄る必要は毛頭なかったのである。私は足速にホテルからジョムソムの集落までの砂ぼこりの激しい道が一番後ろから追いかけた。そして、チェック・



▼カグベニのバッチィ



ポストを素通りしようとする、隊員の三笠が、「ここで皆んなチェックを受けていますから、寄ってください」という。私はチェック・ポストで5年前のお巡りに会ったらやばいとは思ったが、隊員に引き止められたのでは仕方がない。止むなく建物の中に入り、順番を待たため腰掛けに腰を下ろした。役人はただ一人で許可証(トレッキング・パーミット)を台帳に書き写していた。その遅さ加減にいらいらしていたのは私一人ではないだろう。ところが、先客にヨーロッパ人のアンナプルナ山群を一周してきた団体さんがいて、30冊くらいの許可証を山積みしている。お客さん達は既にジョムソムより下に下りており、シェルパが一人で手続きの任に当たっていた。私がホテルからここまで来る間に行き違ったヨーロッパ人は、きっとこのグループなのだろう。私達はチェック・ポストで1時間近くも待たされてしまった。隊員達は気がついていないが、私は一刻も早くジョムソムのチェック・ポストを通過したかったのだ。

ジョムソムの橋の手前のタカリの隊商宿にコックのニマ・トゥンドップが立っていた。「ニマ何しているのかい?」という、キャラバン用の野菜(ノビルのような細い長ネギ)を今集めているところだという。そこで、「この宿で馬が借りられるかなあ?」という、「馬は既にサブ用に頼んでありますので、もう半時間もすれば出発出来ます」といいつつ、「少し高いですが150ルピーなんです。そのかわり競争馬だから足が速いでしょう」というので、カグベニまでの短い距離ではかなり高すぎるとは思ったものの、時計を見ると既に午後3時半近い

ので、歩いて行っては暗くなるかも知れないと思い、隊商宿のタカリのお内儀に足もとを見られたなあと思いながらも、お内儀から馬を借りることにした。

約30分ほど待っていると、お内儀の倅が馬を連れて来て、ポテ圏では珍しい皮製の鞍を取りつけながら、

「この馬はジョムソムでは一番足の速い馬ですよ。並足で行けば馬の上から写真を撮るのも楽な馬です。普通はムクチナートまで250ルピーもらっている馬です」という。タカリのことから信用するわけには行かないが、5年前とは馬の借賃が大幅に上がったことだけは間違いない。一般の物価にしても5年前と比較すると5割から10割も上がっている。ましてや、物資を人間や馬や飛行機で運んでくるジョムソムの物価はインフレの波に襲われているネパールでも、その筆頭のようなのだ。

私は隊商宿の前に並んでいるドロ柳の枝を一本折った。ムチにするためである。隊の先頭はもう既に1時間以上も前を進んでいた。ジョムソム・ブーラのゴビンダ・ナルシン・バッターチャンの家にもちょっと寄りたかったが、もうそんな時間がない。コックのニマが河原の道の方がいいからといって、馬の手綱をとってカリ・ガンダキの河原まで導いてくれた。カグベニまでの道はカリガンダキの左岸につけられた高巻き道を行くのが普通であるが、今は乾期なので河床をとったのである。あとは乗り手か馬次第である。最初はギャロップで調子よく走っていたが、10分も行かないうちにニマが河原の中の浅瀬を水しぶきを飛ばしながらかけ出した。馬も駆けだした。私もドロ柳のムチをふり上げた。すべてが調子よかった。前方の河原を歩いているポーター達や隊員がどんどん近づき、またたく間に彼等を追い越してしまった。ニマも、もう遥か後方に遠のいて行った。

対岸にムクチナートへの分かれ道、エークレ・バッチィの石を泥で固めた小さな茶店が見えるあたりから、右岸の岩壁の下を通る河ぞいの岩場の多い道に入る。カリガンダキの河床は、水を満々とたたえた本流になり、その少しききに板の橋が掛けられていた。橋の上流の流れは急だが渡れそうな浅瀬を見つけ、そこを渡渉して河の中央の河

原に出た。眼前にはカグベニの麦畑の緑とドロ柳の群生があった。

隊員やポーター達も三三五五カリガンダキの河床を、カグベニのオアシス目指して斜めに横切っていた。私は馬に一鞭あたえ、オアシス目指して河原や浅瀬をつつ走った。隊員の誰かが叫んだ。「ウワー、速いなー」その声を後ろにして、ドロ柳の土手を上がり切ると街道に出た。カグベニの入口である。時間にして、4、50分でジョムソムからカグベニに着いたわけだ。

馬を止めて振り返ると、カリガンダキの河床には砂塵が龍巻きのように渦を巻いて吹き荒れていた。夕方の定期便の強風が始まったのだろう。その背後にはニルギリの北峰がいやが上にも高く、厳しい氷雪の鎧を身につけてそびえ立っていた。

カグベニ入口の門になったチョルテンの手前に二階建てのバッチィがある。入口は二階から入れるようになっていて、その下に中座の広場があった。バッチィの窓から駿足のマイル・ランナーのB.B.タマンが顔を出して、本日の露营地はこのバッチィの中庭の予定ですという。馬の手綱をバッチィの入口にしばりつけ中に入った。数人のボテが土間に座って茶を飲んでいて、タカリのお内儀がタカリ絨毯を私の腰掛けている寝台に広げて、「お茶を飲むか」というので、もう歩くところもないのでロキシーを一杯コップについて貰い、B.B.タマンにもつぐようにいった。

部屋の中では客に出す夕食の準備にいそがしかった。ナタでないと割れそうもない堅いガンティ・ムーラ（丸い大根）をククリで割ってお菜のタルカリを作っていた。

そのうちに中庭で人の怒鳴る声があるので、窓から中庭を見下ろすと、もう天幕が幾張りか張られ、折りからのカリ・ガンダキを通り過ぎる強風にバタバタとあおられていた。風は太陽が沈むと同時にパツパツと止み、夜の闇がヒタヒタと押し寄せてきた。

メイン・テントの中でリエゾンのビーム・バードルが、カグベニのチェック・ポストに行って留守なので、最後の関所の突破についてミーティングが繰り返されていた。ケサン・ナムギャル氏や、金子助教の今後の行動やフィールド・ワークに

▼馬上の高橋照氏（'82H A J 登山隊撮影）



についても、楽観論はまったく出て来なかった。また、TBSのVTR取材活動についても前途に暗い影を落としていた。

そして、最終的に決まったことは、ケサン・ナムギャル氏はタンゲ村まで私達と一緒に行動することにし、そこから先は単身でロー・マンタンに行って貰う。金子さんには不本意ながら私達とベース・キャンプに行き、ロー・マンタンやチャランでのフィールド・ワークは断念せざるを得ないだろうということだった。当然ながら一番目立つVTRの機材を持ち込んだTBSのスタッフも、ロー・マンタンでの取材活動は放棄せねばならなかった。

その夜はキャンプに着いたのが遅かったため、夜の食事を終えたのは9時を廻っていた。リエゾンのビーム・バードル・タバは、真っ黒になった頃天幕に戻って来た。多分この先のカグベニのチェック・ポストに行き余計なことを又しゃべって来たに違いない。しかし、私達はジョムソムのCDOの許可を得ているので、何かの方法でジョムソムから、カグベニのチェック・ポストには私達の隊の通過についての通報は流されていたものと思う。

リエゾン・オフィサーのビーム・バードル・タバは、警察学校の体操の先生で、サブ・インスペクターである。苗字はタバなのでチェットリーだが、私の見たところではグルン族の出だと思えた。彼がグルンだと思えるのは容貌が柔和で、チェットリーのようなきびしい顔立ちではないこと。そしてグルンのことに詳しく、グルン語も理解しており、逆にヒンディ語は余りわからない。彼がチェットリーならヒンディ語が出来るはずであるが、ほとんどネパール語だけで話をしてきた。チェット

リーのタバ性を名乗っているのは、この国では軍人や警察官にはチェットリーが圧倒的に多いので、多分チェットリーの仲間入りをして自分を良く見せたかったのだろう。

彼は今回の私達の行動を厳しく規制したが、根は正直で気の小さい警察官である。大学を出ていないことと、下からたたき上げた役人で、しかも本職の警察官の経歴のない体操の教師だけに、今回の連絡官の仕事は大変な重荷であったようだ。そして彼は、内務省の上司からムスタンは外国人立ち入り禁止のリストリクト・エリアだから厳しい監視の目を光らせると、たたき込まれたに違いない。彼はそれを忠実に守っただけのことである。

夕食の席で彼は、
「これからの行動で、ゴムパと住民の写真は絶対に撮ってはいけない」そして、
「明日通過するタンベとチュクサンの村に入っ
てはいけない。もちろん、写真撮影は絶対に禁じる」
といいながらも、小さな声で、

「私の見ていないところでは、私はまったく知らないことなのだから、写真を撮っても私は知らない。だから報告書には書かない」という。要は自身の自己保全に終始した発言であった。

夜遅く私はバッチィの台所に行き、ロキシーを一杯飲みながら、コックのニマ・トゥンドップに、明日私の乗る馬を宿のお内儀に手配させるよう頼んだ。きょう乗って来た馬はカグベニまでという約束で借りうけ、明朝ジョムソムに返さなければならなかったからである。

パチパチと音を立てながら燃えているいろりの火をじっと見つめていると、5年前にたった一人でムスタンに潜入して、バッチィでボテ達と話し合った過ぎし日のことが走馬燈のようによみがえって来た。これからまた一人でロー・マントンに行くのだという錯覚にややもすると陥りそうになって来た。

空には厚い雲がたれ込めていたが、風もなく夜は静かにふけて行った。

2003年H A J サマー・キャンプ隊員募集

カラコルム スパンティーク(7,027m)

パキスタンの登山は、スカルドへのフライトや、ポータートラブルなど、短期間登山にとっては、幾つかの問題がありますが、情報の収集や強力なスタッフ配置、隊員の積極的な参加によって対処して成功に結びつきたいと思います。

尚、パキスタン登山の申請は、年内に行わなければならないので、希望者は早目の申込みにご協力下さい。(日程を変更しました)

記

1. 期間：2003年7月18日(金)～8月25日(月)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：75万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 申込〆切：11月30日(定員になり次第〆切)
6. その他：H A Jの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。高所ポーターは使用しない。

桑頂抗沙峰(6,590m)

チベットのラサから北北東(直線距離で約135km)に美しい山容の山があります。周囲の山々を睥睨するかの様に峻立するその姿は、白い雪にまどわれて見る者は息をのまざるを得ません。

この山は1992年日本隊によって初登頂されていますが、その後登山隊の消息はありません。

そこを舞台にサマー・キャンプを実施します。

記

1. 期間：2003年7月26日～8月22日(28日間)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：70万円
4. 〆切り：定員になり次第
5. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人
6. その他：H A Jの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。高所ポーターは使用しない。

トータル獲得標高2001

山森欣一

21世紀最初の年2001年は、戦後の日本ヒマラヤ登山が開始された1952年から数えて50年でもあった。

その01年は、標高六千メートル以上の峰に66隊327名を送り込んだが、ネパールのダウラギリ I で3名、マナスルで1名、ピサン・ピークで1名と合計5名を失い、1968年以降34年間連続して死亡事故が発生するという不名誉な記録更新となってしまった。岳界挙げて事故防止の努力に取り組まなければならない。

八千メートル峰では、8座で46名の登頂者を出したが、相も変わらぬノーマルルートからの登頂であったが、中では明大のガッシャーブルム 2 座連続登頂が話題となった。また、失敗したものの J A C 東海のローツェ南壁への冬期挑戦が光った。なお、登山の世界に七大陸最高峰レースというマニアがいるらしく、石川直樹がチョモランマに登頂して、その世界最年少記録を樹立したと報道があったが、H A J にも時々大陸の定義やそれに伴い最高峰が統一されていない等の現状を無視したレースは、考え物であろう。

七千メートル峰では、東海大学がクーラ・カンリ山群に残された II 峰 (7,418m) と三峰 (7,381m) の初登頂にチベット大学と合同で成功した。その他ではナムナニ、ニンチン・カンサ、ムスターグ・アタ、アピ、スパンティークで登頂に成功したものの、ヤンラ・カンリ、冬期ネムジュン、フンチなどは健闘したものの登頂を断念した。

21世紀に入った2001年のトータル獲得標高は、従来と少し趣を変えた。今後更に変更を考えている。

35,000m (5 座登頂) を超えた岳人たちの概要

(氏名のゴジックは女性 ×印は死亡)

2001年12月31日現在

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
1	近藤和美 (135,257m) 18 座 1941.11. 生 (60才)	a. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1984. 7. 31	九山同人	ツェト		1
		b. レーニン	7,134	K	1984. 8. 6	九山同人	ラズジ		
		c. イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986. 8. 3	九山同人	ボロド		
		d. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1986. 8. 9	九山同人	ツェト		
		e. レーニン	7,134	K	1986. 8. 15	九山同人	ラズジ		
		f. レーニン	7,134	K	1988. 8. 14	労山	ラズジ		
		g. ハン・テングリ	7,010	H	1989. 8. 6	労山	ソロマ		
		h. ハン・テングリ	7,010	K	1991. 8. 2	労山	ボグレ		
		i. ボベータ	7,439	K	1991. 8. 14	労山	ヴァジ		
		j. チョー・オユー	8,201	C	1992. 9. 20	カトマンズクラブ	北西面	50才	
		k. シシャバンマC	8,008	C	1994. 5. 18	労山	北東稜	52才	
		l. ヌン	7,135	I	1995. 8. 16	労山	北西稜		
		m. ダウラギリ I	8,167	N	1995. 10. 6	労山	北東稜	53才	
		n. コルジェネフスカヤ	7,105	T	1996. 8. 14	労山	ツェト		
		o. リスム	7,050	C	1997. 5. 10	労山	東稜	初登頂	
		p. チョモランマ	8,848	C	1998. 5. 22	労山	北稜	56才	
		q. ナンガ・バルバット	8,126	P	1999. 7. 29	労山	西面	57才	
		r. ブロード・ピークM	8,051	P	2000. 7. 30	労山	西稜	58才	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
2	×山田昇 (115,804) 14座 1950.2.生	a.ダウラギリI	8,167	N	1978.10.21	群馬県山岳連盟	南東稜		2
		b.カンチェンジュンガM	8,586	N	1981.5.9	H A J	南西面		
		c.ランタン・リ	7,205	N	1981.10.10	H A J	南西稜	初登頂	
		d.ダウラギリI	8,167	N	1982.10.18	カモシカ同人	北西稜	初登攀	
		e.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	カモシカ同人	西面	日本人初登	
		f.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	カモシカ同人	南東稜	冬期第三登	
		g.マモストン・カンリI	7,526	I	1984.9.13	H A J	北東稜	初登頂	
		h.K2	8,611	P	1985.7.24	H A J	南東稜	O ₂ レス	
		i.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	O ₂ レス	
		j.マナスル	8,163	N	1985.12.14	カモシカ同人	北東面	冬期第二登	
		k.アンナプルナI	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南壁	冬期初登攀	
		l.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北～南	初縦断	
		m.シシャバンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		n.チャー・オユー	8,201	C	1988.11.6	H A J	北西面	ハット・トリック	
3	岩崎洋 (102,957m) 14座 1960.2.生 (41才)	a.マモストン・カンリI	7,526	I	1984.9.15	H A J	北東稜		4
		b.カルジャン	7,216	C	1986.10.14	H A J	西壁	初登頂	
		c.ピラミッド・ピークM	7,123	I	1993.4.24	H A J	北東稜	初登頂	
		d.ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995.7.7	バーバリアン	西稜		
		e.サトバントM	7,075	I	1995.9.13	雪と岩の会	北稜		
		f.ディラン	7,257	P	1996.7.24	バーバリアン	西稜	下部初登攀	
		g.ムスターグ・アタM	7,546	C	1996.9.14	浪	西稜		
		h.ブロード・ピークM	8,051	P	1997.7.16	群馬県山岳連盟	西稜		
		i.ムスターグ・アタM	7,546	C	1997.9.29		西稜		
		j.サイバル	7,031	N	1998.10.7	バーバリアン	北面	下部初登攀	
		k.スバンティーク	7,027	P	1999.8.17	バーバリアン	南東稜		
		l.ナムナニ	7,694	C	1999.10.25	H A J	北面	西面へ下降	
		m.スバンティーク	7,027	P	2000.8.15	H A J	南東稜		
		n.アビ	7,132	N	2001.10.8	バーバリアン	北面		
4	田辺治 (93,383m) 12座 1961.1.生 (40才)	a.ラプチュェ・カン	7,367	C	1987.10.26	H A J	西稜	初登頂	3
		b.ガッシュャーブルムII	8,035	P	1990.7.26	イエティ同人	南西稜		
		c.コルジュネフスカヤ	7,105	T	1991.7.17	東海山岳会	ツェト		
		d.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1991.7.29	東海山岳会	ポロド		
		e.レーニン	7,134	K	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ		
		f.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西稜		
		g.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁	ハット・トリック	
		i.ギャジ・カン	7,038	N	1994.10.7	信州大学	西稜	初登頂	
		j.マカルーI	8,463	C	1995.5.21	J A C	東稜下	初登攀	
		k.ラトナ・チュリ	7,035	N	1996.10.14	信州大学	西稜	初登頂	
		l.K2	8,611	P	1997.7.19	J A C 東海	西壁上部から初登		
		5	尾形好雄	a.ヒマルチュリW	7,540	N	1978.5.7	雪と岩の会	

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(85,583m) 11座 1948.7. 生 (53才)	b. ヤルン・カン c. マモストン・カンリ I d. ギャラ・ベリ e. リモ I f. ピラミッド・ピーク M g. チョー・オユー h. サガルマータ i. サトバント M j. ガッシャープルム II k. ブロード・ピーク M	8,505 7,526 7,294 7,385 7,123 8,201 8,848 7,075 8,035 8,051	N I C I I C N I P P	1981.5.9 1984.9.15 1986.10.31 1988.7.28 1993.4.24 1993.10.8 1993.12.22 1995.9.13 1997.7.8 1997.7.20	H A J H A J H A J H A J H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 雪と岩の会 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南東面 北東稜 南 稜 南 壁 北東稜 北西面 南西壁 北 稜 南西稜 西 稜	日本人初登 初登頂 初登頂 初登頂	
6	名塚 秀二 (83,442m) 10 座 1954.11. 生 (47才)	a. サガルマータ b. チョゴリ c. カンチェンジュンガ M d. チョー・オユー e. サガルマータ f. ガッシャープルム I g. ガッシャープルム II h. シシャパンマ M i. ブロード・ピーク M j. ダウラギリ I	8,848 8,611 8,586 8,201 8,848 8,068 8,035 8,027 8,051 8,167	N C I C N P P C P N	1985.10.30 1990.8.9 1991.5.24 1993.10.8 1993.12.18 1997.7.7 1997.7.14 1999.10.29 2000.7.29 2001.10.11	植村直己物語 横浜山岳協会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 前橋山岳会 群馬ミヤマ山岳会	南東稜 北西壁 北東稜 北西面 南西壁 北 稜 南西稜 北東稜 西 稜 北東稜	下部初登攀 冬期初登攀	7
7	小西 浩文 (77,274m) 10 座 1962.3. 生 (39才)	a. コルジェネフスカヤ b. イスモイル・ソモニ c. シシャパンマ C d. レニン e. ハン・テングリ f. ブロード・ピーク M g. ガッシャープルム II h. チョー・オユー i. ダウラギリ I j. ガッシャープルム I	7,105 7,495 8,008 7,134 7,010 8,051 8,035 8,201 8,167 8,068	T T C K H P P C N P	1982.7.29 1982.8.5 1982.10.10 1988.8.14 1989.8.6 1991.7.30 1993.7.31 1995.5.9 1997.5.31 1997.7.16	高山研究所 高山研究所 高山研究所 イースト 群馬ミヤマ バイネ/スキー バイネニアソブ ガイア ガイア J A F M A	ツェト ポロド 北東稜 ラスジ ソロマ 西 稜 南西稜 北西面 北東稜 北 稜	20歳	6
8	田部井 淳子 (76,360m) 10 座 1939.9. 生 (62才)	a. アンナプルナ III b. サガルマータ c. シシャパンマ M d. コルジェネフスカヤ e. イスモイル・ソモニ f. レニン g. ハン・テングリ h. チョー・オユー i. ポベータ j. ムスターグ・アタ	7,555 8,848 8,027 7,105 7,495 7,134 7,010 8,201 7,439 7,546	N N C T T K H C K C	1975.5.16 1975.5.16 1981.4.30 1985.7.28 1985.8.7 1985.8.15 1994.8.12 1996.9.10 1999.8.11 2001.8.12	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 国際公募隊	南西面 南東稜 北東稜 ツェト 57歳 西 稜	女性初登頂	9
9	山本 篤	a. ラカボシ E	7,010	P	1987.7.3	明治大学	北 稜		8

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(72,639m) 9座 1962.10.生 (39才)	b.シシャバンマM c.チョー・オユー d.サガルマータ e.ナムチャ・バルワ f.マカルーI g.K2 h.マナスル i.リャンカンカンリ	8,027 8,201 8,848 7,782 8,463 8,611 8,163 7,534	C C N C C P N C	1988.10.24 1988.11.6 1989.10.13 1992.10.30 1995.5.21 1996.8.14 1997.10.8 1999.5.10	H A J H A J カトマンズクラブ J A C J A C J A C 明治大学	北東稜 北西面 南東稜 南壁 東稜下 南南東稜 北東面 北稜	初登頂 初登攀 初登頂	
10	尾崎 隆 (67,483m) 8座 1952.9.生 (49才)	a.ブロード・ピークM b.チョモランマ c.マナスル d.ローツェ e.サガルマータ f.カンチェンジュンガM g.シシャバンマC h.マカルー	8,051 8,848 8,163 8,516 8,848 8,586 8,008 8,463	P C N N N N C N	1977.8.8 1980.5.10 1981.10.12 1983.10.9 1983.12.16 1984.5.19 1986.9.10 2001.5.12	愛知学院大学 J A C イエティ同人 カモシカ同人 カモシカ同人 J A C 国際隊 ニュージーランド	西稜 北西壁 北東面 西面 南東稜 南西面 北東稜 北西稜	第二登 下部初登攀 日本人初登 冬期第三登	13
11	×品川 幸彦 (66,842m) 9座 1968.2.生	a.レーニン b.ハン・テングリ c.コルジュネフスカヤ d.イスモイル・ソモニ e.ハン・テングリ f.ポベータ g.ムスターグ・アタM h.ガッシャーブルムI i.ガッシャーブルムII	7,134 7,010 7,105 7,495 7,010 7,439 7,546 8,068 8,035	K H T T H K C P P	1992.8.12 1993.8.4 1994.7.28 1994.8.4 1995.7.30 1995.8.10 1996.8.13 1997.7.7 1997.7.14	 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	ラズジ ソロマ ツェト ポロド ソロマ ヴァジ 西稜 北稜 南西稜		10
12	野沢井 歩 (66,259m) 9座 1964.8.生 (37才)	a.ヌン b.ダウラギリI c.プモ・リ d.ティリッチ・ミールM e.サイバル f.スパンティーク g.ナムナニ h.ニンチン・カンサ i.アビ	7,135 8,167 7,161 7,706 7,031 7,027 7,694 7,206 7,132	I N N P N P C C N	1992.8.13 1993.10.6 1994.10.21 1995.7.7 1998.10.7 1999.8.15 1999.10.25 2001.8.15 2001.10.6	H A J ベルニナ山岳会 バーバリアン バーバリアン バーバリアン バーバリアン H A J H A J バーバリアン	西稜 北東稜 南稜 西稜 北面 南東稜 北面 西稜 北面	下部初登攀 西面下降	22
13	重廣 恒夫 (63,435m) 8座 1947.10.生 (54才)	a.ナンダデヴィE b.K2 c.ラトックI d.チョモランマ e.カンチェンジュンガC f.マッシャーブルムE g.ブロード・ピークM h.ナイブン	7,434 8,611 7,145 8,848 8,482 7,821 8,051 7,043	I P P C N P P C	1976.6.9 1977.8.8 1979.7.19 1980.5.10 1984.5.18 1985.7.23 1985.8.12 1991.11.25	J A C J M A 京都カラコルムC J A C J A C 関西カラコルム 関西カラコルム J A C	南稜 南東稜 南稜 北西壁 南稜 北西壁 西稜 南西稜	第二登 初登頂 下部初登攀 Sから縦走 初登攀	11

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
14	江塚進介 (62,937m) 8座 1961.4.生 (40才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1991.7.17	東海山岳会	ツェト	ハット・トリック	12
		b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1991.7.29	東海山岳会	ポロド		
		c.レーニン	7,134	K	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ		
		d.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西稜		
		e.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		f.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁		
		g.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北稜		
		h.ガッシャーブルムII	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
15	今村裕隆 (61,954m) 8座 1959.4.生 (42才)	a.ギアラ・ベリ	7,294	C	1986.10.31	H A J	南稜	初登頂 下部初登攀	20
		b.チョゴリ	8,611	C	1990.8.9	横浜山岳協会	北西壁		
		c.カンチェンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	H A J	北東稜		
		d.マカルーI	8,463	N	1991.10.5	ベルニナ山岳会	北西稜		
		e.ヌン	7,135	I	1992.8.13	H A J	西稜		
		f.ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995.7.7	パーバリアン	西稜		
		g.スパンティーク	7,027	P	1999.8.15	パーバリアン	南東稜		
		h.アピ	7,132	N	2001.10.6	パーバリアン	北面		
16	谷川太郎 (57,297m) 7座 1967.6.生 (34才)	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.12	東京農業大学	西稜	初登攀 初登攀	14
		b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1993.7.22	東京農業大学	南稜		
		c.マカルーI	8,463	C	1995.5.22	J A C	東稜下		
		d.ジンミゲラ・チュリ	7,350	N	1995.10.16	東京農業大学	西稜		
		e.K2	8,611	P	1996.8.12	J A C	南南東		
		f.カンチェンジュンガM	8,586	N	1998.5.15	J A C	北面		
		g.チャー・オユー	8,201	C	1999.9.28		北西面		
17	三谷統一郎 (56,966m) 7座 1958.3.生 (43才)	a.アンナプルナ・ダクシン	7,219	N	1978.10.16	明治大学	南西稜	初登攀 日本人初登 初登頂	15
		b.ダウラギリI	8,167	N	1982.10.17	高松労山	北東稜		
		c.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.20	J A C	南西面		
		d.チャー・オユー	8,201	N	1985.10.3	カトマンズクラブ	北西面		
		e.サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜		
		f.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南壁		
		g.マナスル	8,163	N	1997.10.8	明治大学	北東面		
18	宮崎勉 (55,864m) 7座 1947.11.生 (54才)	a.ダウラギリIV	7,661	N	1975.10.21	カモシカ同人	南面	初登攀	16
		b.ダウラギリI	8,167	N	1978.10.19	群馬県山岳連盟	南東稜		
		c.ローツェ	8,516	N	1983.10.10	カモシカ同人	西面		
		d.カルジャン	7,216	C	1986.10.16	H A J	西面		
		e.チャー・オユー	8,201	C	1993.10.12	群馬県山岳連盟	北西面		
		f.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.9	群馬県山岳連盟	北稜		
		g.ガッシャーブルムII	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
19	倉橋秀都 (55,645m) 7座 1960.2.生 (41才)	a.ハン・テングリ	7,010	K	1991.8.2	労山	ボグレ		25
		b.ポベータ	7,439	K	1991.8.14	労山	ヴァジ		
		c.シシャバンマC	8,008	C	1994.5.18	労山	北東稜		
		d.チョモランマ	8,848	C	1998.5.18	労山	北稜		
		e.ナンガ・バルバット	8,126	P	1999.7.27	労山	西面		

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
		f.ブロード・ピークM g.マナスル	8,051 8,163	P N	2000.7.26 2001.10.9	労山 労山	西稜 北東面		
20	後藤文明 (55,398m) 7座 1965.5.生 (36才)	a.プロモ・リ b.サトパントM c.チョー・オユー d.サガルマータ e.ガッシャーブルムII f.ブロード・ピークM g.シシャパンマM	7,161 7,075 8,201 8,848 8,035 8,051 8,027	N I C N P P C	1987.10.13 1990.8.10 1993.10.8 1993.12.18 1997.7.8 1997.7.20 1999.10.29	境町山の会 H A J 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	南稜 北稜 北西面 南西壁 南西稜 西稜 北東稜	冬期初登攀	17
21	山野井妙子 (54,874m) 7座 1956.3.生 (45才)	a.イスモイル・ソモニ b.レーニン c.イスモイル・ソモニ d.ブロード・ピークM e.マカルーI f.ガッシャーブルムII g.チョー・オユー	7,495 7,134 7,495 8,051 8,463 8,035 8,201	T K T P N P C	1985.7.28 1985.8.6 1986.8.2 1991.7.30 1991.10.7 1993.7.31 1994.9.25	高山研究所 高山研究所 高山研究所 バイネ/スキー ベルニナ山岳会 バイネニアソブ	ボロド ラズジ ボロド 西面 北西稜 南西稜 南西壁	O ₂ レス A P	18
22	山本宗彦 (54,822m) 7座 1959.12.生 (42才)	a.レーニン b.イスモイル・ソモニ c.マッシャーブルムE d.ブロード・ピークM e.ラカボシE f.チョモランマ g.マカルーI	7,134 7,495 7,821 8,051 7,010 8,848 8,463	K T P P P C C	1983.7.27 1983.8.6 1985.7.23 1985.8.12 1987.7.3 1988.5.5 1995.5.22	J A C J A C 関西カラコルム 関西カラコルム 明治大学 J A C J A C	ラズジ ボロド 北西壁 西稜 北稜 北稜 東稜下	初登攀	19
23	遠藤晴行 (54,811m) 7座 1957.2.生 (44才)	a.サガルマータ b.コルジェネフスカヤ c.イスモイル・ソモニ d.レーニン e.ナンガ・バルバット f.ガッシャーブルムI g.ガッシャーブルムII	8,848 7,105 7,495 7,134 8,126 8,068 8,035	N T T K P P P	1983.10.8 1985.7.20 1985.7.28 1985.8.6 1988.7.12 1989.7.12 1990.7.2	イエティ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 イエティ同人	南東稜 ツェト ボロド ラズジ 西面 北稜 南西稜	O ₂ レス	21
24	高橋堅 (51,553m) 7座 1958.8.生 (43才)	a.ネムジュン b.ガッシャーブルムII c.コルジェネフスカヤ d.イスモイル・ソモニ e.レーニン f.ディラン g.ウルタルII	7,139 8,035 7,105 7,495 7,134 7,257 7,388	N P T T K P P	1983.10.27 1985.7.28 1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12 1996.7.31	弘前大学 横浜蝸牛山岳会 弘前大学 弘前大学 弘前大学 弘前大学 カトマンズクラブ	東稜 南西稜 ツェト ボロド ラズジ 北稜 南稜	初登頂 初登攀 初登攀	23
25	林雅樹 (51,380m) 7座 1963.11.生 (38才)	a.コルジェネフスカヤ b.イスモイル・ソモニ c.レーニン d.ハン・テングリ e.ポベダ	7,105 7,495 7,134 7,010 7,439	T T K H K	1990.7.24 1990.8.1 1990.8.7 1994.8.11 1994.8.22	京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC 京都クライマーズC	ツェト ボロド ラズジ ソロマ ヴァジ		24

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
		f. ガッシャーブルム I g. バルンツェ	8,068 7,129	P N	1996. 7. 30 2000.10.17	京都クライマーズC 京都クライマーズC	北 稜 南東稜		
26	石川 富康 (49,422m) 6 座 1936.11. 生 (65才)	a. チョー・オユー b. サガルマータ c. ダウラギリ I d. シシャバンマC e. マナスル f. ガッシャーブルム II	8,201 8,848 8,167 8,008 8,163 8,035	C N N C N P	1991. 9. 28 1994. 5. 13 1994.10. 1 1995. 9. 26 1996. 9. 27 1998. 7. 22	シルバータートル 愛知学院大学 シルバータートル Y M S 登 稜 会 シルバータートル	北西面 南 稜 北東稜 北東稜 北東面 南西稜	54才 57才 57才 58才 59才 61才	26
27	×星野 龍史 (48,567m) 6 座 1967.11. 生	. チョー・オユー b. サガルマータ c. ウルタル II d. ガッシャーブルム I e. ガッシャーブルム II f. シシャバンマM	8,201 8,848 7,388 8,068 8,035 8,027	C N P P P C	1993.10. 8 1993.12.22 1996. 7. 31 1997. 7. 7 1997. 7. 14 1999.10.29	群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 カトマンズクラブ 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟 群馬県山岳連盟	北西面 南西壁 南 稜 北 稜 南 西 北東稜	初登攀	27
28	北村 俊之 (47,967m) 6 座 1962. 8. (39才)	a. ブロード・ピークM b. パサン・ラム・チュリ c. ダウラギリ I d. ガッシャーブルム I e. ナンガ・バルバット f. チョー・オユー	8,051 7,354 8,167 8,068 8,126 8,201	P N N P P C	1995. 7. 19 1996.10.19 1997. 5. 31 1997. 7. 16 1998. 8. 5 1999.10. 1	F O S 大阪山の会 ガ イ ヤ J A F M A フ ァ イ ト	西 稜 西 稜 北東稜 北 稜 西 面 北西面	縦走 下部初登攀	28
29	高橋 和之 (46,112m) 6 座 1943. 1. 生 (58才)	a. ダウラギリ IV b. ローツェ c. コルジェネフスカヤ d. イスマイル・ソモニ e. レーニン f. チョー・オユー	7,661 8,516 7,105 7,495 7,134 8,201	N N T T K C	1975.10.19 1983.10.11 1985. 7. 21 1985. 7. 28 1985. 8. 6 1987. 9. 21	カモシカ同人 カモシカ同人 高山研究所 高山研究所 高山研究所 カモシカ同人	南 面 西 面 ツェト ポロド ラズジ 北西面	バラバント	29
30	原 真 (43,952m) 6 座 1936. 8. 生 (65才)	a. コルジェネフスカヤ b. コルジェネフスカヤ c. シシャバンマC d. コルジェネフスカヤ e. イスマイル・ソモニ f. レーニン	7,105 7,105 8,008 7,105 7,495 7,134	T T C T T K	1976. 8. 7 1982. 7. 31 1982.10.10 1985. 7. 21 1985. 7. 29 1985. 8. 6	J A C 東海 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所 高山研究所	ツェト ツェト 北東稜 ツェト ポロド ラズジ		30
31	鈴木 正典 (43,591m) 6 座 1961.12. 生 (40才)	a. ピラミッド・ピークM b. マナNW c. ディラン d. ムスターグ・アタM e. ムスターグ・アタM f. スパンティーク	7,123 7,092 7,257 7,546 7,546 7,027	I I P C C P	1993. 4. 26 1995. 8. 19 1996. 7. 24 1996. 9. 14 1998. 8. 1 2000. 8. 14	H A J 山 形 バーバリアン 浪 岩 ・ 山 H A J	北東稜 南東稜 西 稜 西 稜 西 稜 南東稜	初登頂 下部初登攀	31
32	石川 龍彦 (43,496m) 6 座 1952. 2. 生	a. レーニン b. コルジェネフスカヤ c. イスマイル・ソモニ d. ムスターグ・アタM	7,134 7,105 7,495 7,546	K T T C	1983. 8. 2 1985. 7. 29 1985. 8. 6 1996. 8. 17	関 西 西 ツェト ポロド H A J	ラズジ ツェト ポロド 西 稜		32

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(49才)	e.ニンチン・カンサ f.ハン・テングリ	7,206 7,010	C T	1997.8.18 2000.7.30	H A J	南西稜		
33	坂原忠清 (43,108m) 6座 1944.10.生 (57才)	a.ムスターグ・アタN b.ヌン c.レーニン d.ハン・テングリ e.ポベータ f.ニンチン・カンサ	7,184 7,135 7,134 7,010 7,439 7,206	C I K K K C	1981.8.7 1982.8.15 1988.8.17 1991.8.10 1996.8.3 2000.8.9	スピダーニエ スピダーニエ スピダーニエ 日本教員 日本教員 日本教員	北面 西稜 ラズジ ボグレ ヴァジ 東稜	初登頂 単独	33
34	×加藤保男 (42,523m) 5座 1949.3.生	a.サガルマータ b.ナンダデヴィM c.チョモランマ d.マナスル e.サガルマータ	8,848 7,816 8,848 8,163 8,848	N I C N N	1973.10.26 1976.6.15 1980.5.3 1981.10.14 1982.12.27	R C C II J A C J A C イエティ同人 イエティ同人	南東稜 南稜 北稜 北東面 南東稜	秋期初登頂 冬期第二登	34
35	×三枝照雄 (42,015m) 5座 1957.10.生	a.サガルマータ b.アンナプルナ I c.チョモランマ d.シシャバンマM e.チョー・オユー	8,848 8,091 8,848 8,027 8,201	N N C C C	1985.10.30 1987.12.20 1988.5.5 1988.10.24 1988.11.6	植村直己物語 群馬県山岳連盟 J A C H A J H A J	南東稜 南壁 北稜 北東稜 北西面	冬期初登攀 ハット・トリック	35
36	竹内洋岳 (41,582m) 5座 1971.1.生 (30才)	a.マカルー I b.チョモランマ c.K2 d.リャンカンカンリ e.ナンガ・バルバット	8,463 8,848 8,611 7,534 8,126	C C P C P	1995.5.22 1996.5.17 1996.8.14 1999.5.9 2001.6.30	J A C 立正大学 J A C 国際隊	東稜下 北稜 南南東 北稜 西面	初登攀 初登頂	48
37	高橋和宏 (40,411m) 5座 1973.10.生 (28才)	a.K2 b.マナスル c.リャンカンカンリ d.ガッシャーブルム II e.ガッシャーブルム I	8,611 8,163 7,534 8,035 8,068	P N C P P	1996.8.14 1997.10.8 1999.5.9 2001.7.10 2001.8.13	J A C 明治大学 明治大学 明治大学	南南東 北東面 北稜 南西稜 北稜	初登頂	
38	谷口守 (39,800m) 5座 1948.12.生 (53才)	a.ナンガ・バルバット b.ブロード・ピークM c.チョー・オユー d.ガッシャーブルム I e.バサン・ラム・チュリ	8,126 8,051 8,201 8,068 7,354	P P C P N	1983.7.31 1988.8.13 1992.9.20 1994.8.12 1996.10.19	富山県山岳連盟 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ 富山県山岳連盟 大阪山の会	西面 西稜 北西面 北稜 西稜	日本人初登 下部初登攀	36
39	渡辺玉枝 (39,388m) 5座 1938.11.生 (63才)	a.チョー・オユー b.ダウラギリ I c.ガッシャーブルム II d.ポベータ e.ムスターグ・アタ	8,201 8,167 8,035 7,439 7,546	C N P T C	1991.9.28 1994.10.1 1998.7.22 1999.8.11 2001.8.12	シルバートートル シルバートートル シルバートートル ヴァジ 西稜	北西面 北東稜 南西稜 ヴァジ 西稜	52才 55才 59才	58
40	奥田仁一 (39,233m) 5座	a.カンチェンジュンガM b.ニンチン・カンサ c.チョー・オユー	8,586 7,206 8,201	N C C	1998.5.15 1999.5.30 1999.9.28	J A C J A C J A C	北壁 南西稜 北西面		104

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	1966.9. 生 (35才)	d.ムスターグ・アタ e.ナムナニ	7,546 7,694	C C	2001.8.11 2001.9.25	関西大学	西稜 西面		
41	×佐藤正倫 (39,161m) 5 座 1963.8. 生	a.7,167m峰 b.ナンガ・バルバット c.ブロード・ピークM d.ナムチャ・バルワ e.ガッシャーブルムII	7,167 8,126 8,051 7,782 8,035	C P P C P	1986.8.16 1990.7.24 1991.7.12 1992.10.30 1993.7.22	東京農業大学 バイネニアソブ 東京農業大学 J A C 東京農業大学	南東面 西面 西稜 南壁 南稜	初登頂 初登頂	37
42	和田城志 (39,025m) 5 座 1949.10. 生 (52才)	a.гентII b.ランタン・リルン c.カンチェンジュンガM d.マッシャーブルムE e.ブロード・ピークM	7,342 7,225 8,586 7,821 8,051	P N N P P	1978.7.15 1978.10.24 1984.5.20 1985.7.23 1985.8.12	関西学生岳連 大阪市立大学 J A C 関西カラコルム 関西カラコルム	北面 南東面 南西面 北西壁 西稜	初登頂 初登攀	38
43	保坂昭憲 (38,860m) 5 座 1948.2. 生 (53才)	a.カンチェンジュンガM b.ヌン c.カルジャン d.サトバントM e.チョモランマ	8,586 7,135 7,216 7,075 8,848	N I C I C	1981.9.9 1983.9.14 1986.10.16 1990.8.10 2000.5.17	H A J こまくさ山岳会 H A J H A J 東北海登研	南西面 西稜 西壁 北稜 北稜	52才	39
44	東條真百合 (37,936m) 5 座 1955.6. 生 (46才)	a.コルジュネフスカヤ b.イスマイル・ソモニ c.レーニン d.ガッシャーブルムII e.ダウラギリI	7,105 7,495 7,134 8,035 8,167	T T K P N	1985.7.28 1985.8.7 1985.8.15 1988.8.8 1990.10.9	女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ 女子登攀クラブ	ツェト ボロド ラズジ 南西稜 北東稜		40
45	青田浩 (37,302m) 5 座 1958.1. 生 (43才)	a.アンナプルナI b.レーニン c.プモ・リ d.ナムチャ・バルワ e.レーニン	8,091 7,134 7,161 7,782 7,134	N K N C K	1981.10.29 1984.8.2 1986.12.5 1992.10.30 1999.8.5	イエティ同人 カモシカ同人 J A C	南壁 ラズジ 北東稜 南面 ラズジ	初登攀 初登頂	41
46	吉村哲明 (37,042m) 5 座 1961.7. 生 (40才)	a.コルジュネフスカヤ b.イスマイル・ソモニ c.レーニン d.ディラン e.ブロード・ピークM	7,105 7,495 7,134 7,257 8,051	T T K P P	1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12 1991.7.30	弘前大学 弘前大学 弘前大学 弘前大学 バイネ/スキー	ツェト ボロド ラズジ 北稜 西稜	初登攀	42
47	高橋純一 (37,020m) 5 座 1948.11. 生 (53才)	a.イスマイル・ソモニ b.シア・カンリ c.ムスターグ・アタN d.リモI e.リャンカンカンリ	7,495 7,422 7,184 7,385 7,534	T P C I C	1977.8.8 1979.7.30 1981.8.14 1988.7.30 1999.5.10	H A J 京都カラコルムC スピダーニュ H A J	ボロド 南西面 北面 南壁 北稜		43
48	大神田伊曾美 (37,013m) 5 座 1944.5. 生	a.コルジュネフスカヤ b.レーニン c.チャー・オユー e.スバンティーク	7,105 7,134 8,201 7,027	T K C P	1996.8.14 1998.8.13 1999.9.26 2000.8.15	労山 労山 ファイト H A J	ツェト ラズジ 北西面 南東稜	55才	76

順位	氏名	山名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘要	*
	(57才)	f.ムスターグ・アタ	7,546	C	2001.8.12		西稜		
49	松本正城 (36,362m) 5座 1948.11.生 (53才)	a.クン b.ヌン c.ガッシュャーブルムII d.コルジェネフスカヤ e.ハン・テングリ	7,077 7,135 8,035 7,105 7,010	I I P T H	1981.8.27 1982.8.18 1985.7.28 1988.7.30 1989.8.15	R C C II 東京山岳協会 横浜蝸牛山岳会	東稜 北西稜 南西稜 南東面 ソロマ		49
50	小口順史 (36,139m) 5座 1970年. (31才)	a.ハン・テングリ b.ハン・テングリ c.ポベータ d.レーニン e.ムスターグ・アタ	7,010 7,010 7,439 7,134 7,546	H H K K C	1992.8.10 1997.8.6 1997.8.17 1999. 2001.8.11	東農工大 太陽と風 太陽と風	北面 北面 西稜 ラズジ 西稜		84
51	山中芳樹 (35,819m) 5座 1950.9.生 (51才)	a.イスモイル・ソモニ b.コルジェネフスカヤ c.レーニン d.ハン・テングリ e.サトバントM	7,495 7,105 7,134 7,010 7,075	T T K H I	1986.8.3 1986.8.9 1986.8.15 1989.8.15 1994.9.24	N C P N C P N C P 労山 労山	ポロド ツェト ラズジ ソロマ 北稜		45

※地域の略号 N=ネパール、C=中国、P=パキスタン、I=インド、H=カザフ、K=キルギス、T=タジキスタン

■ 4座登頂者（備考の数字は8,000m峰登頂数）

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
52	川村 晴一	1947.12.生	33,755m	3※
53	貫田 宗男	1951.3.生	33,151m	3※
54	八木原 罔明	1946.11.生	33,215m	3※
55	山野井 泰史	1965.4.生	32,898m	4
56	戸高 雅史	1965.4.生	32,823m	4
57	坂本 正治	1959.10.生	32,670m	3※
58	吉田 文江	1955.10.生	32,454m	4
59	渋谷 由加	1966.1.生	32,430m	4
60	長久保 浩司	1969.4.生	32,197m	3
61	大谷 映芳	1947.4.生	32,138m	2
62	鈴木 幹夫	1967.3.生	32,115m	3
63	×小西政継	1938.11.生	32,048m	3
64	八嶋 寛	1950.3.生	31,827m	3※
65	加藤 慶信	1976.1.生	31,800m	3
66	中島 俊弥	1964.12.生	31,696m	2※
67	×斎藤安平	1953.1.生	31,431m	3
68	鈴木 清彦	1957.2.生	31,419m	2
69	×二上純一	1951.12.生	31,166m	1※
70	重野太肚二	1943.4.生	31,100m	2

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
71	上野 幸人	1954.1.生	30,913m	2
72	林 孝治	1951.9.生	30,882m	2
73	鈴木 孝雄	1938.5.生	30,865m	3
74	富田 雅昭	1956.6.生	30,771m	2
75	飛田 和夫	1946.1.生	30,377m	1
76	千葉 孝義	1945.9.生	30,027m	1

■ 3座登頂者（備考の※印はエヴェレスト登頂者）

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
77	早川 晃生	1956.7.生	29,941m	1
78	田村 正勝	1942.4.生	29,938m	1
79	金沢 健	1945.10.生	29,935m	1
80	柳沢 伸子	1950.10.生	29,769m	1
81	古関 正雄	1961.3.生	29,767m	1
82	中川 裕	1960.8.生	29,302m	0
83	安藤 昌之	1955.11.生	29,280m	0
84	新郷 信廣	1943.3.生	29,250m	0
85	高橋 敏雄	1958.10.生	29,133m	0
86	黒滝 淳二	1952.10.生	29,116m	0
87	堀 弘	1957.8.生	28,991m	0

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
88	黒沢 孝夫		28,744m	0
89	川崎 浩史	1964.1. 生	28,464m	0
90	×北沢真一	1952.2. 生	28,259m	0
91	村上 和也	1955,3, 生	25,975m	3※
92	×吉野 寛	1950,2, 生	25,626m	3※
93	×秃 博信	1951,10, 生	25,626m	3※
94	続 素美代	1967,12, 生	25,250m	3※
95	鈴木 昇己	1953,2, 生	25,144m	2※
96	中村 省彌	1942,5, 生	25,120m	2※
97	澤田 実	1968,7, 生	25,141m	3※
98	佐藤 光由	1961,4, 生	25,100m	3※
99	井本 重喜	1963,1, 生	24,942m	2※
100	坂下 直枝	1947,2, 生	24,907m	2
101	×根津皖一	1939,12, 生	24,403m	3
102	×大西 宏	1962,5, 生	24,321m	2※
103	菊池 守	1955,5, 生	24,180m	2※
104	工藤 寛	1966,6, 生	24,172m	2※
105	賀集 信	1949,1, 生	23,998m	2
106	吉田 裕一	1970,8, 生	23,996m	2
107	川原 慶紀	1940,11, 生	23,866m	2※
108	大久保由美子	1968,12, 生	23,744m	2
109	大宮 求	1949,4, 生	23,639m	2
110	×高見和成	1945,5, 生	23,595m	1
111	×小松幸三	1954,5, 生	23,579m	1
112	中西 紀夫	1958,3, 生	23,546m	2
113	小笠原岩雄	1952,11, 生	23,436m	2
114	吉田 憲司	1953,1, 生	23,300m	1
115	×日野悦郎	1940,5, 生	23,270m	2
116	桑原 巖	1935,11, 生	23,185m	2
117	池田 壮彦	1946,10, 生	23,144m	2
118	永田 幸一	1957,12, 生	23,088m	1※
119	島方 健次	1947,12, 生	23,040m	1
120	平林 克敏	1934,12, 生	23,011m	1※
121	×廣島三朗	1943,3, 生	22,998m	1
122	松林 公藏	1950,5, 生	22,983m	1
123	×小林利明	1948,12, 生	22,939m	1
124	×角田不二	1952,9, 生	22,760m	1
125	角谷 道弘	1963,10, 生	22,745m	1
126	榊原 義夫	1953,11, 生	22,743m	1
127	大谷 亮	1959,9, 生	22,721m	1
128	小林 新二	1956,10, 生	22,718m	1

順位	氏名	生年月日	獲得標高	備考
129	真嶋 花子	1949,2, 生	22,650m	1
130	駒宮 博男	1954,5, 生	22,637m	1
131	服部 徹	1970,1, 生	22,500m	1
132	吉田 秀樹	1953,5, 生	22,446m	1
133	小泉 章夫	1955,11, 生	22,401m	1
134	広瀬 学	1967,3, 生	22,311m	1
135	佐々木稿高	1972,6, 生	22,311m	1
136	岡林 良一	1951,11, 生	22,271m	1
137	横山 英雄	1942,4, 生	22,122m	0
138	志小田美弘	1959,1, 生	22,106m	0
139	金子 秀一	1959,10, 生	21,946m	0
140	金子 珠美	1958,4, 生	21,946m	0
141	古谷 朋之	1972,8, 生	21,853m	0
142	天城 敏彦	1947,5, 生	21,827m	0
143	橋本 康弘	1954,8, 生	21,796m	0
144	燕昇司 実	1942,8, 生	21,757m	0
145	関根 幸次	1933,10, 生	21,756m	0
146	三原 洋子	1941,5, 生	21,755m	0
147	×井波美保	1957,1, 生	21,734m	0
148	松永 忠則		21,734m	0
149	鴨川 正昭		21,734m	0
150	斉藤 正		21,734m	0
151	入瀬 透		21,734m	0
152	横森 健治		21,734m	0
153	梶山 正		21,734m	0
154	×山崎彰人	1967,7, 生	21,721m	0
155	佐藤 英樹	1948,4, 生	21,699m	0
156	橋口 徹	1970,6, 生	21,667m	0
157	水谷 寿宏	1964,4, 生	21,583m	0
158	武部 秀夫	1952,12, 生	21,562m	0
159	石澤 好文	1951,11, 生	21,495m	0
160	保坂 巖	1955,1, 生	21,476m	0
161	溝手 康史	1955,5, 生	21,465m	0
162	花井 修	1952,1, 生	21,363m	0
163	井上 仁	1958,11, 生	21,249m	0

■八千メートル峰 2 座登頂者 (164 番以降)

×椎名厚史、×赤坂謙三ら 29 名

■ 2 座登頂者 (上記を除く)

吉野淳、×植村直己、×藤倉和美、中村進、
深田良一、×坂野俊孝、高橋留智恵ら 131 名

地域ニュース

《ネパール》

大阪山の会がセリブム(6,328m)へ

西北ネパールの山々の解明に意欲をみせている大阪山の会が今夏は2峰の登頂を目指して登山隊を派遣する。目標はトルボ地域のアルニコチュリー(6,034m)とダモダールのセリブム(6,328m)。メンバーは、大西保隊長(60)ら8名で期間は6月23日～7月31日の予定。

東京労山がタシカンI(6,386m)へ

東京都勤労者山岳連盟は、今夏ダウラギリ山群のタシカンI(6,386m)に登山隊を派遣する。タシカンIはフレンチ・パス近くにある双耳峰。メンバーは石原裕一郎隊長(39)ら7名。期間は8月4日～25日を予定している。

明治大学がローツェとアンナプルナI峰へ

創立80周年を迎える明治大学山岳部とOB会である炉辺会は、炉辺会会員による八千メートル峰14座完登を目指して今秋にローツェ(8月15日～10月22日)とアンナプルナI峰(10月27日～11月25日)に登山隊を派遣することになった。メンバーは、三谷統一郎隊長(46)、高橋和弘(29)、加藤慶信(26)、森章一(27)の4名。

カイラス巡礼許可さる

ネパール観光当局者は4月2日、中国がチベットの聖地であるカイラス山やマナサロワル湖などへのネパール経由の訪問を解禁したことを明らかにした。既に各旅行会社に通知したという。

カイラス山などはヒンドゥ教や仏教の聖地。同当局者によると、中国政府は昨年9月の米同時多発テロ後、好ましくない外国人のチベット入りを防ぐためルートを閉鎖していた。(共同)

2002.4.3 朝日新聞

(編注)カイラス山は、完全に中国領にあり、中国ではチベット語の「カン・リンポチェ」という。

《インド》

JACがパドマナブ(7,030m)合同登山へ

日本山岳会では、インド領カラコルムのカラコルム峠、テラムシェール氷河踏査と、未踏峰パドマナブ登山を、インドと合同で実施する。インド側のメンバーは、ハリシュ・カパディア氏をリーダーとする5名。概要は以下のとおり。

記

期間：5月19日～7月8日(登山は6月の15日間)

メンバー：隊長：坂井広志(45)、隊員：林原隆二(52)、大江洋文(42)、棚橋靖(39)、福和田規(30)

《パキスタン》

最新情報

3月末までに申請された登山隊は17隊。そのうち3隊がキャンセル。日本隊は1隊キャンセルされ現在2隊。(今後2隊申請予定あり)

登山料の半額は2月14日正式文書となって発表され、7名を超える追加メンバーも半額。

毎年3月23日(パキスタン・デー)に行われる大軍事パレードが、今年中止になった。軍隊が全て東の守りについていて、事実上パレードは出来ない状態だったから。それほど東との状態が悪いということ。

アフガニスタンのビザが、イスラマバードで取得可能になった。日本大使館から保証書(日本人という保証)を出してもらい取得する。陸路も安定してきている。(情報提供：日・パトラベル)

《中国》

中国登山協会の交流部副部長として、長い間、日本からの登山隊の窓口となっていた、趙建軍氏がこのたび交流部を離れ中国登山協会事務局に転職された。

FAX 86-10-67144859

トピックス

氷河湖氾濫 ヒマラヤ山脈で洪水の危険性
国際社会の取り組み必要

国連環境計画（UNEP）などがネパール、ブータン両国内で調査を実施し、2002年4月16日に結果を公表した。それによると、ヒマラヤ山脈中で十年以内に洪水を起こしかねない氷河湖が、ネパール領内に20、ブータン領内には24あることが確認された。地球温暖化のためヒマラヤ山脈の氷河が崩れていること、また雪解け水の量が増えていることが原因と見られる。今回の調査で確認された氷河湖は、ネパールで2323、ブータンでは2674だった。

UNEPによると、ネパールのヒマラヤ山中の49の観測地点で、1970年代と比べ、これまでに約1度、平均気温が上昇した。年間平均0.06度ずつ上昇が進んでいるという。ブータンでは、氷河が年間20-30mも後退している。

今回、洪水の危険性が確認されたブータン、ネパール両国の計44湖は“氷山の一角”に過ぎない。UNEPのクラウド・テプファー事務局長はこのほど、国連欧州本部内での記者会見で、パキスタン、インド、中国領内のヒマラヤ山脈でも同様の調査を実施する意向を表明した。「調査が進むにつれ、危険性がある氷河湖が、ヒマラヤ山脈だけでも倍増するだろう」と同事務局長は指摘する。

「山はかって、不屈にして不変と見られていた。しかし、海や森林と同様に、環境の変化に弱く、生態系が一度損なわれてしまうと、元に戻すのは至難の技だ」と、同事務局長はUNEPへの取り組みへの協力を訴えた。（2002,4,22 読売新聞）

中国登山協会（略称CMA）代表団が来日

今年1月に新体制となった中国登山協会の代表団が4月5日来日した。一行は、交開封副主席、顔金安副主席、王玉勤（女性）事務局長、王勇峰交流部部长、李豪傑交流部副部長の5名。

6日昼にはHAJ主催の懇談会に出席、夜には今回の招請元である日山協の歓迎会が催され、7

日には、国際山岳年日本委員会が開催した「我ら皆、山の民—私たちは、なぜ山にひかれるのか」フォーラムに出席。8日以降は、仙台、長野、京都、大阪を回って関西空港から帰国された。

なお、代表団によるとCMAでは今夏から秋にかけて、チベットのチョー・オユーを舞台に「国際登山大会」の開催を検討中とのことであった。

ヒマラヤン・クラブ日本支部集会開かれる

4月15日、東京の国際文化会館でヒマラヤン・クラブ（HC）の日本支部集会が開かれた。これは5月にヒマラヤン・クラブのハリシュ・カパデア氏が隊長となるインド領カラコルムの踏査・登山隊に合同先となったJAC隊の坂井広志氏の激励と、昨年HCの名誉会員となったHAJの尾形好雄氏のお祝いを兼ねて、久しぶりに近郊の会員の親睦を行おうと呼び掛けられたもの。

報告によれば、HCの会員は全体で約800名。会員の分布比率は、インド46%、イギリス24%、アメリカ8%、ヨーロッパ7.5%、日本6%などとなっている。日本人の名誉会員は、三田幸夫、吉田宏、稲田定重、大塚博美、松田雄一、尾形好雄の6氏。（三田幸夫氏は 逝去）

当日は、坂井、尾形両氏の他、吉田、大塚、松田各名誉会員や神原達、中村保、大森薫雄、神崎忠男、梶正彦、吉永英明、八木原罔明、寺沢玲子、山森欣一会員と永田岳人、荻原山溪両編集長が参集し、ヒマラヤを話題に懇談した。

■財政支援：1万円（田辺治・ともみ）
5千円（芹沢尚敏）

東京集会のお知らせ

日時	5月27日（月）午後7時～
内容	'82ブリクティ・サイバル登山スライド映写とムスタン最近の話題
場所	HAJルーム（地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分） 又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分）

黄金の玉座から花嫁の峰へ

バルトロ・カンリ(7,300m)～チョゴリザ(7,668m)

連続登頂登山計画

ごあいさつ

日本ヒマラヤ協会（英文略称：HA J）は、広くヒマラヤ地域の登山・踏査・自然科学・人文科学について研究・実践するヒマラヤ愛好者約800名で構成する全国組織の任意団体であります。

本会は、1967年の創立以来インド、アフガニスタン、ネパール、タジキスタン、キルギス、パキスタン、ブータン、中国など広大なユーラシア大陸の山野を舞台に活動してまいりました。

本年は「国際山岳年」であり、又、日本ヒマラヤ協会創立35周年記念にもあたります、が世界情勢の悪化、日本景気の低迷等の影響でヒマラヤ登山も入山数が少ないのが現状の様です。

今回、私達は、パキスタン、小カラコルムに聳えますバルトロ・カンリ（7300m）で高所順応登山を行ない、チョゴリザ（7668m）をアルパインスタイルで登る計画を立案致しました。

バルトロ・カンリはチョゴリザ山塊の東端に位置し、東面にアブルツィ氷河が流下し、西面は北チョゴリサ氷河を挟んでチョゴリザと対峙する山で、1892年イギリスのW.M.コンウェイによって紹介された。Ⅲ峰（主峰）の初登頂は1963年、東京大学カラコルム遠征隊によって成され、1976年には、芝浦工業大学カラコルム登山隊によってⅣ峰の初登頂、Ⅲ峰の第二登、さらにⅡ峰、Ⅰ峰の縦走が成されました。

純白でヒマラヤひだに覆われたチョゴリザはW.M.コンウェイによって、ブライツ・ピーク（花嫁の峰）と呼ばれた山で、巨大な台形をした頂上稜線の両端に南西峰（主峰、7668m）と北東峰（7654m）があります。1909年、イタリアのアブ

HA Jカラコルム連続登山隊

ルッツィ公隊の試登。1957年にはブロード・ピーク初登頂を終えた、ヘルマン・ブール、K. ディームベルガーがアルパインスタイルで北東峰を目指したが、ブールは雪庇を踏み抜き遭難。1958年、北東峰が京都大学隊によって初登頂され、南西峰の初登頂は1975年カベリ氷河側からオーストリア隊によって成されました。1986年にはイギリス隊によって南西峰から北東峰の縦走も成されています。もはやバルトロ・カンリもチョゴリザも未知の頂ではありませんが、その歴史、そこに登場する人々、そしてその頂、私達にとってはとても魅力的な山々であります。

パキスタンは現在、昨年アメリカでのテロ、アフガニスタンへの空爆、そしてインドとの紛争など多くの問題を抱えている状況にあります。又、大自然には人知を超えた摂理があり、様々な問題、困難が予想されますがこれまでの経験を活かし細心の注意を払い目標に向かって邁進していきたいと思っております。何卒、皆様のご理解、ご支援、ご協力をお願い致します。

2002年2月25日 日本ヒマラヤ協会

カラコルム連続登山隊 2002 隊長：岩崎 洋

計画の概要

1. 隊の名称：
日本ヒマラヤ協会 カラコルム連続登山隊
2002年（HA J Karakorum Continue EX P. 2002）
2. 派遣母体：
日本ヒマラヤ協会（HA J）
3. 目標の山及び目的：
パキスタン回教共和国、小カラコルム、バル

トロ・カンリⅢ峰(7300m)の高所順応登山、及びチョゴリザ南西峰(7668m)のバイン氷河から南西稜、アルパインスタイルによる登頂。山岳環境の保全(テイクイン、テイクアウト運動の実践)

隊の構成

隊長：岩崎 洋(Iwazaki Hiroshi):隊長、渉外、食糧
(生年月日):1960年2月 生(42歳)O型
(現住所):愛媛県温泉郡

4. 登山期間:

2002年6月10日～8月20日

5. 隊の構成:

岩崎 洋隊長以下4名

6. 推進の組織:

H A J、カラコルム連続登山隊実行委員会

会長:山森 欣一 (H A J理事長)

実行委員長:岩崎 洋(H A J常務理事・登山隊隊長)

実行委員:八木原罔明(H A J常務理事)

“ 尾形 好雄(同 “)

“ 中川 裕(同 “)

“ 野沢井 歩(同 “ ・登山隊員)

“ 田辺 治、後藤 文明(登山隊員)

7. 現地連絡先

Nippa Traver(日・パトラベル)

House No.6 Bazar Road G6/4

Islamabad Pakistan P.O.Box2253

Tel 092-51-2824556, 2874656, 2821254

Fax 092-51-2272958. 2820992

E-mail: nippagr@isb.comsats.net.pk

8. 国内連絡先:

日本ヒマラヤ協会(隊事務局)

東京都豊島区東池袋4-2-7 萬栄ビル501

Tel: 03-3988-8474、Fax 03-3988-8502

(夜間)出発まで 岩崎 洋(089-964-9948)、

野沢井 歩(044-877-1096) 隊出発後 中川裕(03-3907-6847)

9. 日程:(詳細は別冊 参照)

6月10日 パキスタ、イスラマバード集合。

6月13日～25日(各キャラバン)。6月27

日～7月16日(バルトロ・カンリ登山)。7

月22日～22日(チョゴリザ、キャラバン)。

7月26日～8月8日(チョゴリザ登山)。8

月14日～18日(帰路キャラバン)。8月20日

イスラマバード現地解散

(職業):気象庁富士山測候所(調理)

(パスポートNo.):

(ヒマラヤ登山歴)

1984 インド、マモストーン・カンリ(7,526m)登頂

1986 中国、カルジャン(7,216m)初登頂

1993 インド、スフィンクス(6,824m)登頂、ピ
ラミッド・ピーク(7,123m)初登頂

1995 パキスタン、ディル・ゴル・ゾム(6,773m)
登頂、ティリチ・ミール(7,706m)登頂

インド、サトバント(7,075m)登頂

1996 パキスタン、ディラン(7,257m)下部初登攀

中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂

1997 パキスタン、ブロード・ピーク(8,051m)

登頂、ガッシャー・ブルムI(8,068m)

中国、ムスターグ・アタ(7,546m)登頂

1998 ネパール、サイパル(7,031m)登頂

1999 パキスタン、スパンティーク(7,027m)登頂

中国、カバン(6,717m)、グナ・ラ(6,902m)
登頂、ナムナニ(7,694m)北面初登攀

2000 パキスタン、スパンティーク(7,027m)登頂

中国、クーラ・カンリI(7,538m)

2001 ネパール、アビ(7,132m)登頂

隊員:田辺 治(Tanabe Osamu):輸送、医療

(生年月日):1961年1月 生(41歳)B型

(現住所):愛知県名古屋市中区

(職業):登山ガイド

(パスポートNo.):

(ヒマラヤ登山歴):

1982 ネパール、ガネッシュ・ヒマールII(7,111m)

1987 中国、ラプチェ・カン(7,367m)初登頂

1989 中国、チョモランマ(8,848m)北西壁8,250m

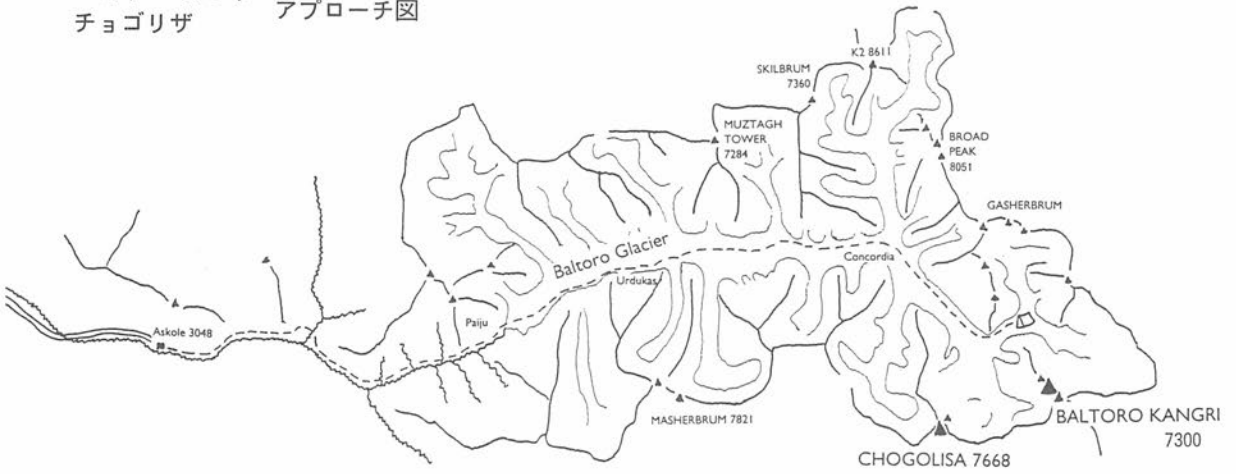
1990 パキスタン、ガッシャーブルムII(8,035m)登頂

1991 インド、カンチェンジュンガ(8,586m)

タジキスタン、コルジェネフスカヤ(7,105
m)登頂、イスモイル・ソモニ(7,495m)登

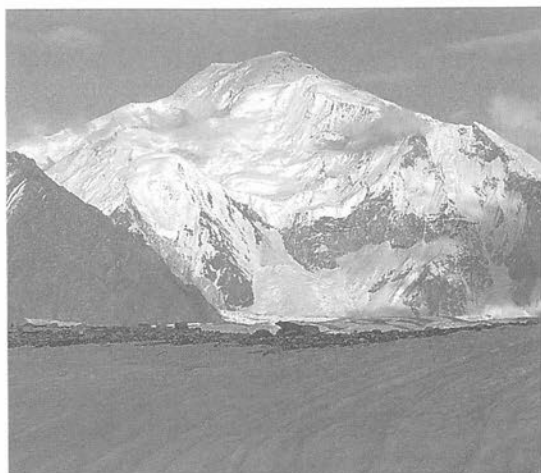
頂、キルギス、レーニン(7,134m)登頂、ネパー

バルトロ・カンリ
 チョゴリザ アプローチ図



チヨゴリザ
 バルトロ・カンリ周辺図

▼バルトロ・カンリ (写真：藤田弘基氏)



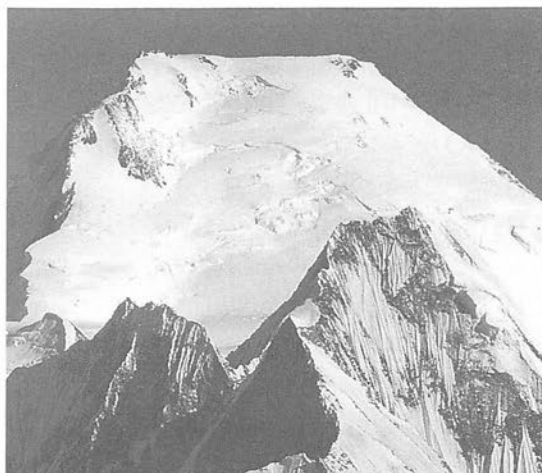
- ル、サガルマータ(8,848m)冬期南西壁
 1993 パキスタン、ブロード・ピーク(8,057m)登頂
 中国、チョー・オユー(8,201m)登頂、ネパール、サガルマータ(8,848m)冬期南西壁登頂
 1994 ネパール、ギャジ・カン(7,038m)初登頂
 1995 中国、マカルー(8,463m)東稜下部初登攀
 1996 ネパール、ラトナ・チュリ(7,035m)初登頂
 1997 パキスタン、K 2 (8,611 m)西稜～西壁上
 部初登攀
 1998 ネパール、カンチェンジュンガ(8,586m)北壁
 2000 ネパール、ガネッシュ VI (6,480 m)登頂、
 ガネッシュ・ヒマール II (7,111 m)
 2001 中国、チョー・オユー(8,201m)登頂
 ネパール、ローツェ(8,516m)冬期南壁
 隊員：野沢井 歩 (Nozawai Ayumi)：国内会
 計、装備

(生年月日)：1964年 8月 生(37歳) B型
 (現住所)：神奈川県川崎市

(パスポートNo)：
 (職業)：富士山 強力
 (ヒマラヤ登山歴)：

- 1991 ネパール、マカルー(8,463m)
 1992 インド、ヌン(7,135m)登頂
 1993 ネパール、ダウラギリ I (8,167m)登頂
 1994 ネパール、プモ・リ(7,161m)登頂
 1995 パキスタン、ディル・ゴム・ゾム(6,773m)
 登頂、ティリチ・ミール(7,706m)登頂
 ネパール、パルチャモ (6,187m)

▼チョゴリザ (写真：藤田弘基氏)



- 1996 ネパール、チュル南東峰(6,400m)登頂
 1997 パキスタン、ガッシャーブルム II (8,035m)
 ブロード・ピーク(8,051m)
 1998 ネパール、サイパル(7,031m)登頂
 1999 パキスタン、スパンティーク(7,027m)登頂
 中国、カバン(6,717m)、グナ・ラ(6,902m)
 登頂、ナムナニ(7,694m)北面初登攀
 2000 中国、ターラ・リ(6,777m)、チェマテン
 ヨン(6,480m)初登頂、マイシャ・カンリ(5,
 993m)初登頂、クーラ・カンリ I (7,538m)
 2001 中国、ニンチン・カンサ(7,206m)登頂
 ネパール、アピ(7,132m)登頂

隊員：後藤 文明(Goto Fumiaki)：現地会計、環境
 (生年月日)：1965年 5月 (36歳) O型
 (現住所)：茨城県守谷市

(パスポートNo)：
 (職業)：明星電気(株) 守谷工場
 (ヒマラヤ登山歴)：

- 1987 ネパール、プモ・リ(7,161m)登頂
 1990 インド、サトバント(7,075m)登頂
 1991 インド、カンチェンジュンガ(8,586m)、ネ
 パール、サガルマータ(8,848m)冬期南西壁
 1993 中国、チョー・オユー(8,201m)登頂、ネパール、
 サガルマータ(8,848m)冬期南西壁初登攀
 1997 パキスタン、ガッシャーブルム II (8,035m)
 登頂、ブロード・ピーク(8,051m)登頂
 1999 中国、シシャパンマ(8,027m)登頂
 1999 ネパール、マナスル(8,163m)

事務局日誌 (4月)

- 1日(月) 高所登山「事故と環境対策研修会」中止決定。関係者へ連絡
- 2日(火) ニンチン・カンサ隊日山協「山岳共済」申し込み
- 4日(木) ニンチン隊、乃一隊員転動により参加取消しの電話連絡あり
- 6日(土) 中国登山協会代表团
H A J 歓迎会 (於、大都会、山森、尾形、中川)
同代表团日山協歓迎会 (於、ランドマーク、酒井、山森、森山、田村)
- 7日(日) 同代表团H A J サヨナラ (於、渋谷、山森、八木原)
- 9日(火) ヒマラヤ366号発送
- 10日(水) 役員等就任意向伺い発送
- 11日(木) 理事会通知発送
- 15日(月) ヒマラヤン・クラブ日本支部総会、(於、国際文化会館、山森、八木原、尾形、寺沢)

- 18日(木) カラコラム、ニンチン・カンサ社行会案内状発送
CMAへ隊員変更通知とH A P 依頼書提出
- 21日(日) カラコラム連続登山隊合宿 (於、ルーム全員)
- 22日(月) 東京集会 (17名)
- 25日(木) 国際山岳年日本委員会 (於、シティクラブ・オブ東京、山森)
- 26日(金) CMAへニンチン・カンサ隊費送金

ヒマラヤ No.367 (6月号)

平成14年5月10日印刷 14年6月1日発行
 発行人 山森欣一
 編集人 山森欣一
 発行所 日本ヒマラヤ協会
 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7
 萬栄ビル501号
 電話 03-3988-8474
 郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」

東京新聞の山岳書 東京新聞出版局

〒108-8010 東京都港区港南2-3-13
 TEL: (03) 3740-2674 (直)

山小屋の主人の 炉端話

著名な山小屋の主人たちが宿泊の登山者に炉端で語る一人話の取つて置きのお話。

工藤隆雄 著

1500円

すぐ役立つ 山の花学

【飛騨高山の花博士】として知られる著者の、山の花見術入門書。

小野木三郎 著

1456円

すぐ役立つ

山の気象と救急法

山の気象遭難を回避するための大気判断と、事故対策に役立つ救急法を平易に紹介。

飯田睦治郎 著
 桜井博幸 著

1359円

すぐ役立つ

記念日の山に登ろう

人それぞれの記念日の日付と標高が一致する山はここに。

石井光造 著

1300円

山の百名水

山岳写真家30年、北海道・利尻から尾久島まで、山の百名水を取材。

山下喜一郎 著

1553円

北アルプス やまびと物語

「岳人」に3年余り連載した「山人探訪 男達の賦」に加筆、登山をより楽しむための冊。

柳原修一 著

1456円

北アルプス 山小屋物語

歴史を刻んできた66軒の山小屋をめぐる山と人の物語。

柳原修一 著

1456円

花と歴史の50山

「花と歴史の山脈」の第2弾、花の山々を訪れた珠王のエッセー集。

田中澄江 著

1359円

改訂増補 六十歳からの 日本三百名山

60歳から13年間かけて三百座を踏破したスーパードンさんの山行記。

田中三郎 著

1456円

新・山靴の音

選歴をむかえた著者が山への思いと、山の仲間との交遊を綴る。

芳野満彦 著

1262円

中高年登山 なんでも百科

「登山に年齢はない」と主張する著者が、より安全により快適に登山を楽しむための、中高年登山の虎の巻。

福島正明 著

1500円

さわやかに山へ

世界的な女性登山家が初歩から「ヒマヤ」を歩き、山を楽しむ安全ガイドを掲載する。

田部井淳子 著

1500円

登山の 運動生理学百科

「どうしたら合理的で安全な登山ができるのか」を、ヒマヤなど高所登山実績を踏まえて、分かりやすくまとめた。

山本正嘉 著

2000円

山書散策

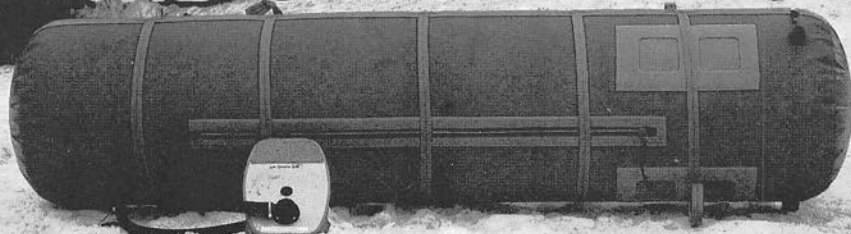
今まで数多く発刊された山書、何を読んだらいいか、そんな時の指針として「一人」連載時から好評。

河村正之 著

1500円

※東京新聞の販売店でも取り次ぎいたします。※本体価格に消費税が加算されます。

THE GAMOW BAG



高山病対策の必需品

ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などお任せください。)

遙かなる高みへ

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・
現地手配までお引き受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・
中国・東南アジア・アフリカ・中南米～



◆格安航空券のご相談は◆

キャラバンデスク

(東京) ☎03(3237)8384 (直通)

(大阪) ☎06(6362)6060 (直通)

トレッキング・海外登山・シルクロード・秘境旅行のパイオニア ■本

社/〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1

岩波書店アネックス5F

☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396

■大阪営業所/〒530-0026

大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F

☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966



株式会社 西遊旅行

国土交通大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

西遊旅行ホームページ (<http://www.saiyu.co.jp>)

お問い合わせ・お申し込みフリーダイヤル
(通話料無料)をご利用下さい。

☎0120-811395

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店/〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3208-6601
- 新宿西口店/〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03-3346-0301
- 神田登山店/〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-6-1(クイビル2F) ☎03-3295-0622
- 神田本館/〒101-0051 東京都千代田区神田小川町3-10 ☎03-3295-3215
- 八王子店/〒192-0081 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426-46-5211
- 大宮店/〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町1-37 ☎048-641-5707
- 高崎店/〒370-0831 群馬県高崎市新町5-3 ☎027-327-2397
- 川越店/〒350-0045 埼玉県川越市南通町14-4 ☎0492-26-6751
- 甲府店/〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-1 ☎055-221-0141
- 宇都宮今泉店/〒321-0962 栃木県宇都宮市今泉町1560 ☎028-639-9650
- 太田高林店/〒373-0825 群馬県太田市高林東町1386 ☎0276-38-0620
- 松本店/〒390-0874 長野県松本市大手3-4-24 ☎0263-36-3039
- 長野店/〒380-0825 長野県長野市末広町1356 ☎026-229-7739
- 新潟店/〒950-0087 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025-243-6330

- 新潟とやの店/〒950-0982 新潟県新潟市堀之内南1-16-52 ☎025-241-5134
- 仙台店/〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022-297-2442
- 秋田広小路店/〒010-0001 秋田県秋田市中通1-4-5 ☎018-884-1771
- 盛岡大通店/〒020-0022 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎019-626-2122
- 札幌店/〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西4-8 ☎011-222-3535
- 北十二条店/〒001-0012 北海道札幌市北区北十二条西3-5 ☎011-747-3062
- 伏古店/〒007-0861 北海道札幌市東区伏古一条4-1-45 ☎011-787-0233
- 平岡店/〒004-0874 北海道札幌市清田区平岡四条1-43-9 ☎011-883-4477
- 外商部(メールオーダー係)/〒169-0073 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03-3200-7219



ICI 石井スポーツ

事務所/〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004